



令和4年度 学校だより

はがきた

第5号 令和4年9月30日

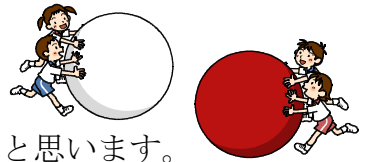
教育目標

『学ぶ子 守る子 がんばる子』
集中して学び、生命と人権を
守り、生きる力の基礎を身に
付けた子どもを育成する。

明日から10月！

季節が過ぎるのは早いもので、明日から10月、令和4年度の折り返しを迎えました。保護者の皆様にはますます御健勝のことと思います。

2学期は様々な行事があり、本番はもとより、練習の時間から児童の意欲的で楽しい姿が見られます。特に、10月22日(土)の運動会に向けて、各学年の練習が本格的になってきました。それぞれの種目に趣向を凝らしているの、練習自体が楽しく見えます。当日もどんな活躍が見られるのか楽しみでなりません。思う存分とは言えませんが、できる範囲で、児童の活躍を見ていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



もうすぐ修学旅行!!

10月6日(木)、7日(金)の2日間にわたって6年生の修学旅行が行われます。6年生はコロナウイルス感染症の影響を受けて、4、5年生のときの宿泊学習ができませんでした。ですから初めて学年で行う宿泊学習となるわけです。きっと、ワクワクドキドキなのではないでしょうか。実施についてはいろいろな考え方があり、現状を考えると、正直心配がないわけではありません。しかし、児童が感染症対策を意識して行ったことで、4年生の宿泊学習でも5年生の臨海自然教室でも無事に実施することができました。今回もできるだけの感染症対策を行い、学校の中だけでは体験できない感動体験をしてこられ

ればと思っています。御理解御協力よろしくお願ひいたします。なお、10月7日には1～5年生の遠足があります。そちらについても御理解御協力よろしくお願ひいたします。



稲刈りをしました!!!(5年)

9/16(金)、学校近くの黒崎さんの田んぼをお借りし、5年生が稲刈り体験を行いました。自分達で田植えをして育った稲を、一生懸命に、かつ、うれしそうに刈り取っていました。ほとんどの児童が初めての経験だったので、上手くできない児童もいましたが、黒崎さんに教えていただきながら、あっという間に刈り取りました。早く食べてみたいと口々に話していました。

家庭教育学級

9/20(火)にとちぎSCの2人のコーチが来校され、親子サッカー教室が行われました。児童は、お父さんやお母さんとボールをつなぎ合いながら、夢中になってプレーしていました。最後に行った親子試合では、名勝負が展開されました。



10月の主な行事予定

- 1(土) いちご一会とちぎ国体(~11日)
- 4(火) PTA体育委員会
- 5(水) ワーク・ライフ・バランス(定時退勤日)
- 6(木) 6年修学旅行(~7日) 巡回相談
- 7(金) 1～5年遠足
- 10(月) スポーツの日
- 11(火) 委員会⑤ 読み聞かせボランティア来校
- 12(水) 就学時健康診断
- 14(金) 巡回相談
- 15(土) 運動会準備・手伝い



- 17(月) バス乗車指導③
- 18(火) 教職員による読み聞かせ
- 19(水) 運動会予行
- 21(金) スクールサポーターはがきた来校
バス乗車指導④
- 22(土) 秋季大運動会
- 24(月) 運動会振替休日
- 26(水) 卒業アルバム写真撮影
- 28(金) 巡回相談 スクールサポーターはがきた来校
- 31(月) バス乗車指導⑤

☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

【稲刈り体験】(5年)



【学力向上研修会】



【教職員による読み聞かせ】



【家庭教育学級】(1年親子サッカー教室)



【野口英世記念館出前授業】(6年)



十三夜(じゅうさんや)



月がきれいな季節となりました。旧暦9月13日、この日の月は十三夜と呼ばれ、1年の中で2番目に美しい月とされています。十三夜の頃は、気候が安定し空気も澄んでいるので、こちらの方の月が鮮明で一番きれいだと言われる方もいます。今年の十三夜は10月8日(土)です。

「中秋の名月」の十五夜がほぼ満月なのに対し、十三夜はやや欠けた月になります。十五夜は中国が発祥ですが、十三夜は日本発祥の風習です。延喜19年(919年)に十五夜の宴に加え、**旧暦9月13日の月夜を「十三夜」と呼び祝うようになった**ということが最初の記録として残っています。しかし実は民間には、「十三夜」は「十五夜」よりもずっと前から広く普及していた風習だったようです。それは、「十五夜」が「収穫を祈る」のに対して、「十三夜」は「**収穫に感謝する**」ことを目的にしていたからだと言われています。そして、古来の日本人は、満月よりも少し欠けている月に、そこはかたない美しさを見出し、趣を感じていたわけです。「**月は満月よりも、**

幾分か欠けている方が風情がある」とは清少納言の言葉です。「不足の美」「未完成の美」「余白の美」などという、日本文化独特の美的価値観とも言えるのではないのでしょうか。目に見えるものが全てではなく、大切なものは人々が心の中で完成させたものが本当の美であるとされ、**月が欠けた部分はその美しさをより引き立たせる大切な要素だった**という訳です。

この「十三夜」の時期は稲作の収穫を終える地域が多いことから、秋の収穫に感謝するという、「収穫祭」的な意味合いが強いといえます。ちょうど収穫期を迎える粟や豆がお供え物の主役になることから「**粟名月**」「**豆名月**」の呼び名もあるとか。また、地域によってですが、「十三夜」の月の出具合によって、翌年の小麦の収穫を占う風習もあったそうです。月は、ただ美しいだけでなく、神秘の力があるようですね。

「十五夜」にお月見をしたら「十三夜」にもお月見をしないと「片月見」といって縁起が悪いそうです。澄んだ大気に包まれ、美しい月を眺めたり、虫の声に耳を傾けたりしながら、ゆったりと心を癒やしてみたいはいかがでしょうか。

※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。
ぜひ御覧ください。